

平成 28 年度 文化振興課所管

文化行政の概要

滋賀県県民生活部文化振興課

滋賀県県民生活部文化振興課

〒520-8577 大津市京町四丁目 1-1

FAX 077-528-4833

E-mail ck00@pref.shiga.lg.jp

URL <http://www.pref.shiga.jp/c/kemmin-s>

管 理 係 : TEL 077-528-3341 (ダイヤルイン)

美の滋賀・企画係 : TEL 077-528-3344 (")

新生美術館整備室 : TEL 077-528-3346 (")

①-1 文化芸術の振興

文化振興基本方針 (2,186千円)

滋賀県文化振興条例 (H21年7月制定)



目標、施策の方向等の明確化

滋賀県文化振興基本方針 (第2次) H28年3月策定

■基本方針 (第2次) の主な概要

- 方針期間 5年間 (平成28年度～平成32年度)
- 基本目標 滋賀の文化力を高め、発信することで地域が元気になっていく姿
- 施策の方向および重点施策
 1. 文化プログラムの推進による文化的資産の活用・発信
 - (1) 文化による本県ブランド力の向上と国内外への効果的な発信
 - (2) 地域で継承されてきた文化的資産の発掘・保存・活用
 2. 未来の文化の担い手の育成
 - (3) 子ども・若者が本物の文化に触れる機会の充実
 - (4) 若手芸術家等の育成・支援
 - (5) 文化活動を支える人材の育成・支援
 3. 県民の主体的な文化活動の促進
 - (6) 新しい豊かさを実感できる文化芸術活動の推進
 - (7) 「美の滋賀」づくりの推進
 - (8) 自立的な文化活動の促進
 - (9) 文化活動の環境の整備

<文化振興推進事業>

- 県・市町連絡調整会議の開催
- 文化審議会評価部会等の運営
- 滋賀県文化振興基金の確保 等

東京オリンピック・パラリンピック文化プログラム推進事業 (11,604千円)

(仮称) 滋賀文化プログラム準備会議・推進会議の設置・運営 (304千円)

リオ大会以降、東京大会までの4年間にわたり全国展開される文化プログラムについて、平成27年度末に策定した(仮称)滋賀文化プログラム(案)を踏まえ、市町、関係団体等で構成する推進会議において取組や情報発信の方策について検討し、「(仮称)滋賀文化プログラム」を策定する。

文化プログラムフェスティバル事業 (11,000千円)

- 次世代芸術フェスティバル
若手芸術家に対する発表機会の提供等により、若手芸術家のレベルアップを図ると共に東京オリパラ・国体に向け、滋賀の文化を担う若手を育成し、東京オリパラに向けた文化プログラムを推進する。
- 国際交流フェスティバル
国際的な音楽家を招聘し、多くの方々に一流の音楽を提供することにより、芸術文化を通じた国際交流の気運醸成等を図る。

冊子・リーフレット作成 (300千円)

文化プログラムに関する取組等を紹介する冊子を作成・配布し、周知を図る。

文化情報の提供 (7,025千円)

情報発信サイト「滋賀文化のススメ」の運営 (指定管理事業)

- 県内の文化的資産に関する情報や、文化芸術活動に関わる人たちの情報を発信。

湖国文化情報「れいかる」の発行

- 年6回発行、●40,000部/回●県内約500箇所の公共施設等に配置

総合文化誌「湖国と文化」の提供

- 年4回発行、●3,000部/回●うち、約420部を県内外図書館、大学などに配付

文化施設以外の文化活動場所の情報収集・提供事業(※予算)

- 文化施設以外の場所で、文化・芸術活動ができる場所の情報収集や提供を行う。

①-2 文化芸術の振興

次世代文化芸術推進事業 (33,765千円)

子どもたちの文化芸術体験学習を量的・質的に県全域へ拡大

滋賀次世代文化芸術センター運営費補助金 (9,800千円)

学校等と文化施設・芸術家等と結び、学校の授業等で文化芸術体験を行うためのコーディネート等を行う民間支援組織「滋賀次世代文化芸術センター」に対して補助する。

＜主な事業内容＞

- ①学校等と文化施設等が連携した授業の実施
- ②連携授業等にかかる文化ボランティアの募集・育成
- ③連携事業等にかかる教員向け研修の実施

美ココロ・パートナーシップ事業 (2,500千円)

通常教室に通えない子どもたちを対象に、文化芸術体験プログラムの実施および本事業の講師として活躍できる若手芸術家の育成を図るため、「滋賀次世代文化芸術センター」に対して補助等を行う。

びわ湖ホール舞台芸術体験事業（ホールの子事業）(21,465千円)

県内の子どもたちが本物の舞台芸術を鑑賞する機会を拡充するため、びわ湖ホールにおいて、小学生向け舞台芸術公演を5日10公演開催するとともに、参加に要する交通費を学校等へ支援する。

（補助経費）学校からびわ湖ホールまでの交通費（バス1台あたり上限5万円）

【びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！（ホールの子事業）】

- 対象：小学校中学年程度 ○会場：びわ湖ホール大ホール
○内容：声楽アンサンブルとオーケストラによる音楽公演（10公演）

各種学校向けプログラムの情報発信 (240千円)

県全体の次世代文化芸術体験事業を推進するため、文化施設等が取り組む学校向け文化芸術体験学習プログラムの情報提供を行う。

滋賀県芸術文化祭の開催 (22,380千円)

県民の意欲的な創作活動の発表の場を提供し、文化芸術に親しみ鑑賞する機会とする。

■オープニング式典

■公募展

- ・第70回滋賀県美術展覧会
- ・第55回滋賀県写真展覧会
- ・第66回滋賀県文学祭

■参加事業

芸術文化祭参加事業の募集



近江歴史回廊推進協議会運営補助 (7,500千円)

歴史文化資源をまちづくり、ひとづくりに活かす

■協議会の組織 県・県教委・市町・民間会員で構成

■本会事業

- 近江歴史回廊大学の開催
- 情報発信事業（Web情報発信、ガイドマップ作成）

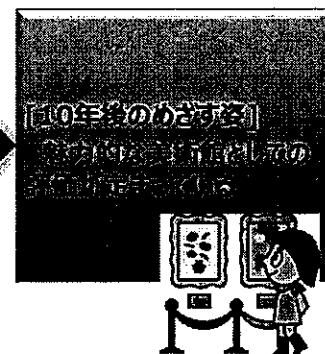
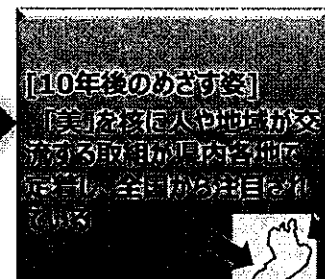
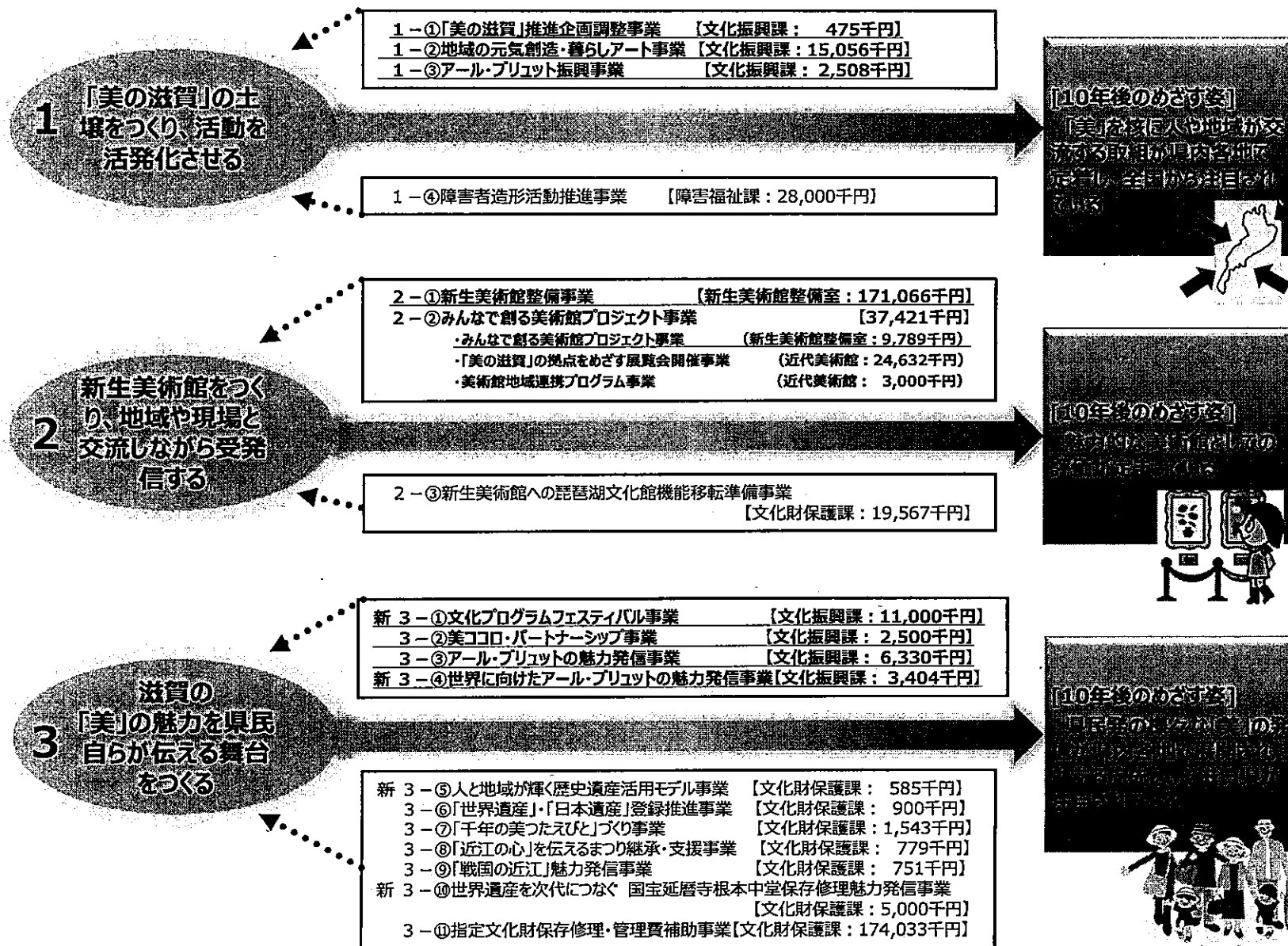
■部会事業

- ・近江戦国の道部会 ・近江東海道部会
- ・湖西湖辺の道部会

■歴史回廊大学運営協力 近江歴史回廊倶楽部



近江歴史回廊



奥深い可能性を秘める「美」の資源を浮かび上がらせ、「美の滋賀」として発信することにより、滋賀の魅力を一層高め、県民の誇りを育てる

②-2 「美の滋賀」発信事業

(地域の元気創造・暮らしアート事業／「美の滋賀」推進企画調整事業)

H28当初予算 15,531千円

美の資源を活用して地域を元気にする取組の支援や、ネットワーク化および広域展開を促進することにより、東京オリンピック・パラリンピックに向けて、多彩な文化プログラムの展開、発信力のある新たなアートプロジェクトへの発展をめざし、「美の滋賀」の土壌づくりを推進していきます。

① ネットワーク化事業（委託）

アートや暮らしの中にある美の資源を活用して地域を元気にする取組のネットワーク化および広域展開を図り、発信力のある新たなアートプロジェクトへの発展が期待できる取組を公募。

(対象：NPO等民間団体)

・委託料：6,000千円（2,000千円×3団体程度）

- ※ ネットワーク化を図り、広域的な事業展開を図る取組を対象
- ※ 事業推進員を設置し、推進会議等に参画。
- ※ 地域コミュニティの再生、移住促進、世代間交流等、文化芸術の力で創造的なまちづくりや課題解決を図る取組を推進（例：地域資源の活用、「地の人」と「入り人」の交流促進等）

② 活用推進事業（補助）

アートや暮らしの中にある美の資源を活用し、地域住民とつながりながら地域を元気にする取組を公募。（対象：NPO等民間団体、市町等）

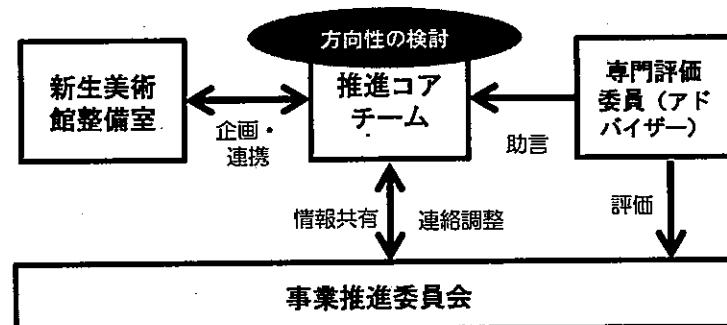
・補助金：8,000千円（800千円×10団体程度）

- ※ 補助率 定額
- ※ 事業推進員を設置し、推進員会議等に参加。
- （「美の滋賀」の理念・方向性を共有し、オリパラに向けて「美の滋賀」を積極的に発信することを目的とする。）



③ 全体経費

「美の滋賀」創造事業スーパーバイザー設置経費、選考会議、成果発表会（フォーラム）開催経費など



「美の滋賀」推進（アドバイザー）経費

美の滋賀の土壌づくりを推進し、また、「美の滋賀」の入り口となる「新生美術館」の活動や地域の団体等の取組をつなぎながら「美の滋賀」の価値やイメージを向上させていくため、「美の滋賀」アドバイザーから助言や提案を受ける。

**東京オリ・パラに向けて、リオ大会終了後の2016年秋から国の文化プログラムが始動！
多彩な文化プログラムの展開や新たなアートプロジェクトへの発展をめざします。**

②-3 県民生活部(文化振興課)と健康医療福祉部(障害福祉課)との連携

アール・ブリュット振興事業(2,508千円)

アール・ブリュットに関わる多様な分野の関係者間の交流促進、情報発信等を目的とした全国ネットワークの活動等を推進する。

1. アール・ブリュット連携組織事業(2,114千円)

- (1) 企画会議・会員交流会(384千円)
- (2) フォーラム開催(1,610千円)
- (3) 情報提供(メルマガ)(120千円)

2. しがアール・ブリュットアドバイザーの設置(394千円)

アール・ブリュットにかかる施策等について意見や助言を受けるためアドバイザーを設置する。

アール・ブリュット魅力発信事業(6,330千円)

アール・ブリュットを通じて、県民の感性や創造性を養うため、作品の魅力を発信する取組等を推進する。

1. 県民自らが語るアール・ブリュットの魅力発信事業(4,830千円)

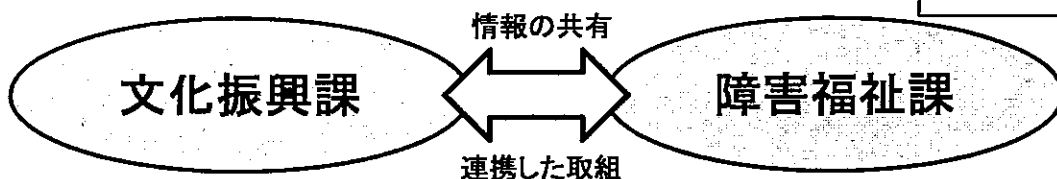
- (1) アール・ブリュット作品の展示(3,250千円:委託)
- (2) アール・ブリュット作品の魅力を活かした取組(1,000千円:補助)
- (3) 広報(580千円)

2. アール・ブリュット作品調査(500千円)

美術館アール・ブリュット担当学芸員が作品調査を実施する。

3. アール・ブリュット戦略的発信事業(1,000千円:補助)

特に発信力が高い先進的な取り組みを支援する。



世界に向けたアール・ブリュットの魅力発信事業(3,404千円)

2019年度のリニューアルオープンを控える新生美術館や2020年東京オリパラに向けた文化プログラムの展開などを背景に、アール・ブリュットの魅力の世界に向けて情報発信し、滋賀の魅力向上をめざす。

1. 外国語版アール・ブリュット映像コンテンツの制作(1,140千円)

アール・ブリュットの魅力と創作活動の様子が分かる映像コンテンツ(平成27年度作成)の外国語版を制作する。

2. 外国語版アール・ブリュットガイドブックの制作(1,264千円)

アール・ブリュットの作品や作家を紹介するガイドブック(平成26年度作成)の英語版を制作する。

3. アール・ブリュットトークイベント開催(1,000千円)

著名人にアール・ブリュットの魅力を語っていただくトークイベントを通して、アール・ブリュットの普及と理解促進、新生美術館リニューアルオープンに向けた気運醸成を図る。

障害者造形活動推進事業(28,000千円)

障害のある人の芸術作品を多くの人々に紹介することにより、障害のある人の社会参加と生きがいや自信になるとともに障害者理解にもつながることを目的として、障害者の芸術文化活動を推進する。

1. ぴかつtoアート展開催(5,000千円)

障害者アート公募展

2. 表現活動支援(4,000千円)

糸賀一雄記念賞音楽祭、歌やダンス等のワークショップ

3. NO-MA運営助成(19,000千円)

障害のある人と障害のない人の作品を並列して展示するボーダーレスアートミュージアムNO-MAの取組支援

②-4 新生美術館の整備【平成28年度予算概要】

当初予算額 228,054千円
(近代美術館・文化財保護課予算を含む)

文化振興課新生美術館整備室
077(528)3346

新生美術館整備事業

施設整備

①基本設計・実施設計

新館建築、既存館改修、公園改修の設計を一体的に実施
(H28年度までの合計180,000千円)

②設計・施工関連業務（申請手数料）

設計および施工準備に必要な申請手数料

③整備推進アドバイザー

④整備検討調整業務

美術館機能向上

①作品収集・制作

滋賀にゆかりの作家やアール・ブリュット作品の収集、恒久展示作品制作調査

②デジタルデータ整備

作品や資料などの情報をデータベース化

③交通アクセス向上（ラッピングバス）

美術館へのアクセス手段としての公共交通をアピール

琵琶湖文化館機能移転

①作品移転に向けた調査・修復（文化財保護課）



みんなで創る
美術館の実現！



みんなで創る美術館プロジェクト事業

37,421千円

みんなで創る美術館の体制づくりと情報共有

①全県推進体制

みんなで創る美術館円卓会議、連携推進懇話会の開催

②整備情報発信・アーカイブ化

整備の方向性や情報をお知らせするフォーラム開催、リーフレット作成と、整備過程のアーカイブ化

③県民参加型美術館ファンド

作品購入等の財源確保のため、美術館整備に対し幅広い寄附を募る

「美の滋賀」の核となる美術館づくり

①「美の滋賀」拠点形成フェア（「美の糸口」アートにどろん！開催）

「美の滋賀」の魅力を五感で楽しめるフェアを近代美術館および周辺公園内で開催

②「美の滋賀」の拠点形成につながる美術館展示（近代美術館）

③近代美術館クロージングシンポジウム（近代美術館）

地域とつながる美術館を実現

①美術館地域連携プログラム（近代美術館）

県内各地の施設・団体等と連携し、ワークショップやトークを実施

②アートツアーバスの運行

美術館と県内各地を結び、アートツーリズムのモデル提案にもつながるバスを運行

平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	～平成31年度 ～(2019年度)
(設計者決定)	工事設計			新館建築・既存館改修工事 公園改修工事
作品収集・恒久展示作品制作				

「美の滋賀」の魅力に出会い楽しめる美術館
をめざし、平成31年度までにオープン！



③ー 1 県立文化施設の事業展開

文化産業交流会館

県民の文化芸術創造活動の支援

地域文化の再評価

人材の育成・支援

県内ホールとの協働

◇次世代とすべての県民のために「教育普及」

次世代創造発信事業、古典芸能キッズワークショップ
滋賀県ピアノコンクール、湖国の表現展 他

◇優れた劇場による「公演制作」

伝統と創造シリーズ、次世代育成ユースシアター、
次世代伝統文化継承事業「近江の祭り」 他

◇文化芸術を支え未来へつなぐ「人材育成」

湖国新進アーティスト演奏会、
邦楽・邦舞実演家養成、アートマネジメント人材養成講座 他

◇共に働き、新しい文化価値を創造「共働と連携」

地域ホールとの協働制作「おうみ狂言図鑑」、
アートコラボレーション事業、ビジネス・カフェin文産会館 他

びわ湖ホール

国際的水準の舞台芸術の創造と発信
～人々・地域・創造・未来に貢献する劇場～

舞台芸術の創造と提供、普及

◇オペラを軸とした舞台芸術の創造

プロデュース・オペラ「ラインの黄金」、
沼尻竜典オペラセレクション「ドン・パスクアレ」、 他

◇国内外のトップレベルの舞台芸術の提供と国際交流の推進

二兎社、松竹大歌舞伎、野村万作・萬斎狂言、新国立劇場バレエ他

◇青少年が本物の舞台芸術に触れるための取組み

音楽会へ出かけよう！（ホールの子事業）、青少年料金の設定 他

◇舞台芸術の楽しみを広める取組み

ラ・フォル・ジュルネ、オペラへの招待、ワークショップ、
劇場サポーター、シアターメイツ 他

◇専属声楽アンサンブルによる活動の展開

定期公演はじめ自主事業への出演、東京公演、ロビーコンサート、
小学校巡回公演、ふれあい音楽教室、依頼公演 他

◇地域との連携の促進

びわ湖大津秋の音楽祭、地域協働公演、他

指定管理者 公益財団法人びわ湖ホール・公益財団法人滋賀県文化振興事業団共同体

管理料 1,288,444千円（びわ湖ホール 960,028千円、文化産業交流会館 328,416千円）

市町ホールとの連携／NPO等との協働／学校・地域へのアウトリーチ など

③ー２ 県立文化施設の事業展開

近代美術館

優れた美術作品の収集と展示

企画展の開催

- ・BIWAKO大賞展 4/2～4/17 開催日数：14日
- ◇時と風景ー未来をつなぐコレクションー 4/23～6/26 開催日数：56日
- ◇生誕130年 バーナード・リーチ展 7/9～9/25 開催日数：68日
- ◇つながる美・引き継ぐ心(仮称) 10/8～11/23 開催日数：40日
- ・第70回滋賀県美術展覧会 12/6～12/18 開催日数：12日
- ◇ウォルター・クレインと19世紀の挿絵本(仮称) 2/4～3/26 開催日数：44日

常設展の開催

- ◇小倉遊亀コーナー
- ◇夏休み子ども美術館 ほか

教育普及の取組

企画展に関連する講演会・講座の開催、子ども向けワークショップ、博学連携・学校連携の強化、学校連携に基づく授業プログラムの普及 など

管理運営＝県直営

管理運営費＝103,308千円 展覧会開催費等＝90,022千円

希望が丘文化公園

豊かな自然環境を生かした青少年の健全な育成

◇青少年育成事業

- ・自然体験事業(自然観察会、クラフト体験、キャンプ、ハイキング等)
- ・人材育成事業(キャンプリーダー養成講習会等)
- ・スポーツ事業(テニス、ジュニアサッカー、ランニングスクール等)

◇共催・連携事業

- ・希望が丘フェスティバル事業(新緑祭・スポーツフェスティバル等)
- ・びわ湖男女駅伝フェスティバル
- ・病気や障がいのある子どもを対象としたキャンプ
- ・びわ湖カップ健康グランド・ゴルフ大会
- ・全日本びわ湖クロスカントリー大会

指定管理者＝公益財団法人滋賀県文化振興事業団
管理料＝387,666千円